

予算の執行とその概要

日本経済は、GDPが名目、実質ともに過去最大規模となり、企業収益は過去最高を記録するとともに、就業者数の増加、賃上げなど、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環が着実に回りつつある中、政府においては、アベノミクスの成果を全国津々浦々まで一層浸透させ、経済の好循環を更に加速させる施策を実施していく必要があるとしています。一方で、国・地方の債務残高がGDPの2倍程度に膨らみ、なおも更なる累増が見込まれ、国債費が毎年度の一般会計歳出総額の2割以上を占めるなど、引き続き厳しい状況にあります。

このため、政府では、「経済再生なくして財政健全化なし」を基本とし、戦後最大の600兆円経済と財政健全化目標の達成の双方の実現、国・地方を合わせた基礎的財政収支（プライマリーバランス）の黒字化と同時に、債務残高対GDP比の安定的な引き下げを目指すとともに、一人ひとりの人材の質を高める「人づくり革命」と、成長戦略の核となる「生産性革命」を最優先に、誰もが生きがいを持って充実した生活を送ることのできる一億総活躍社会の実現に取り組むとしています。

こうした状況にあって、本市においては、令和元年度の予算編成に当たりましては、安全・安心な市民生活の確保や防災・減災への対応をはじめ、市立芦別病院の経営問題への対応など山積する諸課題の着実な前進と克服に挑んでいくとともに、「不易流行」のまちづくりに心がけ、「市民の福祉増進と安定した財政基盤の確立」、「人口減少と少子高齢化に対応する地域力の向上」、「地域経済・産業の活性化」を主眼として、「第5次芦別市総合計画」及び「芦別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の総仕上げを図るために必要な予算を計上しました。

予算の執行に当たりましては、「行財政改革の推進と財政の健全化」を中心に据え、「縮充」の視点をもって「減量経営」で歳出を抑制し、身の丈にあった財政運営を心掛け、引き続き「成長と改革」をキーワードとした市政の推進に鋭意努めてまいりました。